

ぽっかぽか



天間幼稚園

園長だより

第 9 号

令和 5.2.1



【言霊(ことだま)】には、不思議な力がある。「ほかほか言葉」を使いましょう！



今年度も残り2カ月、保育日数31日となりました。保護者・地域の皆様には、日頃より、本園の教育に温かいご支援ご協力をいただき心より感謝申し上げます。おかげさまで、子どもたちの成長は著しく、元気いっぱい、にこにこ笑顔で幼稚園生活を楽しくしています。

園庭では、かけっこ、マラソン、縄跳び、雲梯、登り棒等に挑戦したり、自分たちで工夫した鬼遊び、ドッジボール、リレー等を楽しんだりしています。また、教室では、こま回しやメロディオンに挑戦したり、節分の鬼払いの準備やおしゃれなマフラー・バッグ作りを楽しんだりしています。

さて、先日あるラジオ番組で料理を紹介する場面がありました。そこで、京の伝統料理の”油揚げ”が紹介されていました。その”油揚げ”を”おあげさん”と話されていたのを何気なく聞いていたのですが、”油揚げ”に”お”を付け、さらに”さん”まで付けた呼び名に、何か懐かしさと”やさしさ””しあわせ”感を覚えました。

妻にそのことを話すと、「“おいなりさん” “おまめさん” “お疲れさん”、それに”おひなさま” “おかげさま” “おたがいさま” また、”ごせんぞさま” “ごくろうさま” “ごちそうさま”もあるね。」とたくさん言葉が出てきました。また、炊き立ての熱いご飯に、熱いお茶を注ぐときには、「ごめんなさいね」と言って注ぐとか、これは、食べ物大切にしようとする気持ちや親近感、相手をいたわり丁寧に対応をしようとする気持ちの表れだと思います。

ところで、本年度も子どもたちには、幸せを運ぶ魔法の言葉、いわゆる「ほかほか言葉」を使うよう勧めてきました。

あいさつもその一つ。子どもたちは、朝からきちんと大きな声で”おはようございます” “ありがとうございます”、職員室に入るときは、”しつれいします” “しつれいしました”、失敗してしまったら”ごめんなさい” “だいじょうぶ?”, 保育中も”〇〇さんどうぞ” “はい、わかりました”と丁寧な言葉で相手を尊重する言葉が使えるようになってきました。

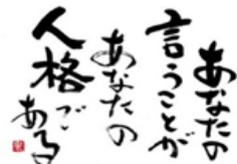
ただ、まれに、”やばい” “このやろう” “むかつく” “うざい” “ばか” というような、いわゆる「ちくちく言葉」が聞こえてくることがあります。

日本では、昔から言葉の力を”言霊(ことだま)”と言って、言葉には、心や気持ちを宿し、運命を変える不思議な力があると信じられてきました。

実際に、子どもたちの様子を見ていても、マイナスの言葉を口にしている子は、乱暴であったり、マイナスな行動を起こしやすいと感じています。

反対に、失敗やつらいことがあっても、「だいじょうぶ、だいじょうぶ」「心配してくれてありがとう」「どうしたの」「元気出して」というように、ほかほか言葉を話したり、かけたりしている子は、行動も穏やかで、周りの子どもたちも私たち職員的心も元気にしてくれます。

園での子どもたちの成長は、ご家庭や地域の皆様の支えや声掛けで大きく違ってきます。家庭は、「種をまく前の土づくり」、園は、「良質な栄養と温かな日差し」を与えることができるよう努力してまいります。ご家庭や地域では、「ほかほか言葉」の土づくりをよろしくお願いいたします。



やまびこ

高森顕徹



呼べば呼ぶ

呼ばねば呼ばぬ 山彦ぞ

まず笑顔せよ みな笑顔する

人は、してもらって嬉しいと感じたことは必ず誰かにもしたくなる。

人に優しく親切にすると、親切にされた人は、嬉しかった親切を今度は自分にも返してくれる。

だから、まず、自分から動いてみるのが大切ですね。

子育てポイント

－ 天国言葉を話して、地獄言葉を口にしない－

○天国言葉・ついでる・うれしい・楽しい・感謝してます・幸せです・ありがとう

☒地獄言葉・不平不満・愚痴・泣き言・悪口・文句・心配事

「ついでる」とたくさん言っていると実際に「ついでる」ことがやってくる。

「ありがとう」とたくさん言っていると「ありがたい」ことがやってくる。

逆に「不平不満」を言っている人には、「不平不満」がやってくる。

言霊(ことだま)は、発した言葉通りの結果を表すそうです。

また、天国言葉は品格を高め、地獄言葉は品格を卑しめるそうです。

子どもたちにたくさんの天国言葉をかけていきたいですね。



命をいただく

小学校に勤務していた頃、学校給食週間にちなんで、「いのちをいただく」という絵本の執筆に携わった内田美智子さんのコメントを引用して、次のようなお話をすることがあります。

皆さんは、なぜ、食べる前に「いただきます」って言うか知っていますか。先生は、次の二つの意味があると思います。

一つ目は、「生き物の命をいただく」ということです。

植物は、生きていくための栄養をその場所で吸収して、さらに自分の力で栄養を作り出すことができます。

ところが、私たち人間や動物にはそれができません。

だから、どうしても他の生き物の命を奪って「食べる」必要があります。

動物だって植物だって、どんな生き物だって、自分の命の限り精いっぱい生き続けたい、そう願って生きているに違いありません。

しかし、私たち人間は、そんな生き物の命をいただかなければ、一時も生きていくことができない悲しい宿命を背負っています。

二つ目は「作ってくれた人の命をいただく」ということです。

命とは、時間です。

今朝、皆さんのお母さんは、30分かけて朝ご飯を作りました。

今日の夕食、お母さんは、1時間かけて夕ご飯を作ります。

その朝ご飯には、お母さんの30分ぶんの命、夕ご飯には1時間ぶんの命が込められています。

皆さんが生まれてから今日までの間、お母さん、お父さんは、自分の命の時間をどれだけ使って、みんなのために働いて、食べさせてきてくれたでしょう。

食べ物を粗末にするということは、作ってくれた人の命も粗末にすることにつながります。

ところが、どうでしょう。

日本では、1年間の食べ残しが、何と3300万人分の栄養をまかなえるくらいになるそうです。

これは、カナダやオーストラリアの人口に匹敵します。

私たちは奪われた命の意味も深く考えないで、毎日の食事をしています。

動物は、自分の食べ物を自分で獲って生きています。

しかし、人間だけが、自分で直接手を汚すこともなく、他人に任せて、お店でお金を払ったりして毎日の食事をしているのです。

みなさんは、食べ物をいただくとき、そこに尊い命があったことを忘れてはいけません。

そして、その命を敬い、「いただきます」「ごちそうさま」と感謝の言葉をかけてあげられる人になってほしいと思います。

そうすれば、食べ物になった命は、みんなの体に姿を変えて、あなたの中で生き続けます。

そして、体の中からあなたを精一杯応援してくれます。

みんなができる最高の恩返しは、たくさんの生き物たちから命のバトンを託されたあなたの命を、いっぱい輝かせることです。

今の当たり前が、多くの命に支えられている有り難いことであることに、私たち大人も感謝の気持ちをもって、これからの天間地区の未来を担う子どもたちの大切な命が、きらきら輝くよう支えてまいりましょう。

今後とも本園の教育活動にご理解ご協力をお願いいたします。

